

関西社会福祉学会ニュースレター

2014年度2号

2014年度 関西社会福祉学会

年次大会の開催にあたって

開催校ご挨拶

花園大学社会福祉学部

学部長 三品桂子

2014年度の関西社会福祉学会年次大会は、2015年3月21日(土)に、花園大学社会福祉学部(京都府京都市)において開催いたします。

今大会の開催にあたり、開催校としての挨拶と案内を申し上げます。

花園大学社会福祉学部は1964年に仏教福祉学科として文学部の中に設置され、1992年には社会福祉学部として独立し、現在は社会福祉学科、臨床心理学科、児童福祉学科の3学科をもつ学部となっています。社会福祉学科は社会福祉士国家試験受験資格と介護福祉士国家試験受験資格が取得でき、臨床心理学科においても社会福祉士と精神保健福祉士の受験資格を取得できます。児童福祉学科は保育士・幼稚園教諭・養護教諭の資格取得ができるカリキュラムとなっており、3学科ともに実践現場に質の高い人材を輩出することを大切にしております。

今年度の大会では、「児童虐待の現状と課題について」をメインテーマにし、児童虐待問題に関する鼎談を企画しています。児童虐待は深刻な社会問題であり、子どもの健全育成や家族支援を支える社会福祉学の立場として取り組んでいく重要な課題と言えます。

この度のプログラムでは、長く児童相談所で虐待問題への対応をしてこられました津崎哲郎本学教授の講演をいただき、児童虐待問題の現状とその支援における課題について考えます。なお、津崎教授は本年度をもって本学を定年退職されますので、長い実践/研究活動のまとめのお話をいただきます。

その後は「親および子どもの支援で何が必要か～当事者の経験に学ぶ～」と題する鼎談を行います。被虐待体験を持ち、現在は支援活動を展開しておられる上原よう子さん(NPO 法人虐待問題研究所)と、専門職として支援活動を行っておられる石田文三さん(弁

護士、春陽法律事務所、児童虐待防止協会副理事長)、そして津崎教授の3人で、児童虐待問題をどう捉え、どのように対処してゆけばよいか、親と子どもの支援を考えたいと思っています。会員の皆様におかれましては、ぜひともふるってご参加いただきたいと思います。

2014年度 関西社会福祉学会年次大会・

日本社会福祉学会関西地域ブロック総会案内

標記の大会・総会を下記のとおり開催します。会員の皆様におかれましては、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2015年3月21日(土) 10:00～19:00

場所：花園大学社会福祉学部

京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1

(JR嵯峨野山陰線「円町」駅下車、徒歩8分)

大学には駐車場はございません。公共交通機関でお越し下さいますよう、お願いいたします。

プログラム

09:30 受付開始

10:00～12:00 自由研究発表

12:00～13:00 昼食休憩(昼食は、各自ご準備ください。近所には、コンビニはありますが、食堂等食事のできる場所はあまりありません)

13:00～13:50 年次総会

13:50～14:00 休憩

14:00～14:15 会長挨拶、開催校挨拶

14:15～15:45 講演

「児童虐待の現状と課題」

●講演者

津崎哲郎(花園大学教授)

15:45～17:00 鼎談

「親および子どもの支援で何が必要か～当事者の経験に学ぶ～」

●討論者

津崎哲郎(花園大学教授)

上原よう子(NPO 法人虐待問題研究所)

石田文三(弁護士、春陽法律事務所、

児童虐待防止協会副理事長)

17:30～19:00 情報交換会(学内で開催予定。参加費2,000円を当日受付にてお支払ください)

参加申し込み・問い合わせ先：

花園大学社会福祉学部 福富昌城

E-mail : m-fukuto@hanazono.ac.jp

ファックス : 075(811)9664

※関西社会福祉学会年次大会および情報交換会への参加申し込みにつきましては、①お名前、②ご所属、③懇親会参加の有無をご記入のうえ、上記メールまたはファックスにて申し込んでください。電話でのお問い合わせはご遠慮下さいますようお願い申し上げます。※会場の準備の都合上、3月6日(金)までにお申し込み下さい。

自由研究発表の募集

1. 申し込みの締め切りについて

発表を希望される方は、メールにて、2015年2月10日(火)までに、「関西社会福祉学会自由研究発表申し込み」と表題をつけ、発表テーマ(主題)、氏名、所属、連絡先(メールアドレス及び電話番号)、必要な機器(パソコンなど)を必ずお書きのうえ、下記の宛先までメールにて申し込んでください。(なお、お申し込み後1週間以内にメールにて受付確認の返信をいたします。連絡のない場合はお問い合わせください。)
※パソコンはWindowsのみの対応となります。パワーポイントは、拡張子が「ppt」となるPowerPoint 97-2003形式でファイルを作成してください。

2. 自由研究発表申し込みの宛先

佛教大学 所研究室

E-mail : tokoro@bukkyo-u.ac.jp

3. 自由研究発表要旨と資料について

自由研究発表要旨を次の要領に従い、2015年3月3日(火)までに下記の宛先まで、メールもしくは郵送にて送付してください。

・メールの場合(件名に「自由研究発表要旨」と記載してください)

E-mail : tokoro@bukkyo-u.ac.jp (所研究室)

・郵送の場合(封筒に「自由研究発表要旨」と記載してください)

〒603-8301

京都市北区紫野北花ノ坊町96

佛教大学社会福祉学部 所研究室 宛

・発表要旨は、ワードまたは一太郎で作成いただき、文書とPDF文書(レイアウトの確認のため)の2つをお送りください。PDF文書の作成が困難な場合、ワードのみでも結構です。

<自由研究発表要旨の様式>

(1)用紙サイズ・枚数: 1発表につきA4版2ページまで横書き

(2)余白: 上下左右25mm(目安)

(3)フォント

- ・主題-12 ポイントゴシック
- ・副題-10.5 ポイントゴシック
- ・所属-9 ポイント明朝 氏名-10 ポイント明朝
- ・会員番号-9 ポイント明朝
- ・キーワード-9 ポイント明朝

※以上を用紙の上側に罫線で囲んで記載してください。

見出し-10 ポイントゴシック

本文-9 ポイント明朝 1行48~50字程度

(4)自由研究発表要旨と資料について

提出いただいた自由研究発表要旨は、当日の大会・総会資料と一緒に綴じ込み配布いたします。

発表場所と時間は後日メールにてお知らせいたします。なお、当日配布資料については、各自印刷の上、30部を持参してください。

(5)ニューズレター掲載用原稿の依頼について

本学会ニューズレターに大会報告を掲載いたします。自由研究発表をされた方には、大会後、ニューズレター掲載用の原稿(自由研究発表の概要)をご提出いただきます。詳細は、自由研究発表の申込者に別途お知らせいたします。

(関西大学 山縣文治・佛教大学 所めぐみ)

第33回若手研究者・院生情報交換会 案内

ソーシャルワークと社会正義

—日本の社会福祉は貧困にどう対峙するのか—

「日本の社会をより良い社会に変革するには、ソーシャルワークが社会運動の一環として、改めてマクロ的な視野を取り戻さない限りは不可能ではないのか?」、「ソーシャルワークは今こそ、社会正義や人間性の回復という価値基盤・原点に戻り、本来のソーシャルワークを取り戻せねばならない。この挑戦なくして、ソーシャルワークの未来はない」。

上記の言葉は、訓覇法子が、『ソーシャルワークの復権—新自由主義への挑戦と社会正義の確立』(Ferguson2008=2012:263)への寄稿で、「本書が日本で読まれることの意義について」と題して述べたものである。

現在の日本では新自由主義的政策の下、非正規労働者の増加、1世帯辺りの平均所得も減少し、「子どもの貧困」が社会問題化するなど、社会の構造的な問題として貧困は拡大・深化している。こうした中、2014年7月には、「改正」生活保護法が施行され、2015年4月には、生活困窮者自立支援法が施行されようとしている。また、2013年8月からは、生活保護基準の切り

下げが始まり（3年間で670億円）、その削減された財源が生活困窮者自立支援に投入されている。「社会運動の一環としてマクロ的な視野を取り戻さなければならない」という指摘は、こうした状況に対して、ソーシャルワークが個別の支援に止まり、貧困の拡大・深化に対して具体的な取り組みをしてきたと言えるのか、と問うていることに他ならない。実際、本来のソーシャルアクションを実践できている社会福祉士（ソーシャルワーカー）は一部であることが明らかになっている。これは社会福祉士だけの問題ではない。社会福祉・ソーシャルワークの研究者も、ソーシャルアクションを視野に入れた行動をとることができていたのだろうか？ 今、日本のマネジメント化しつつあるソーシャルワークは、新自由主義の元で、構造的に拡大・深化する貧困を前に、その在り方が厳しく問われていると言える。

今回の情報交換会では、上記のような問題意識を前提にしながら、根源的なソーシャルワークが持つ貧困に対峙する機能（ソーシャルアクション等）と、貧困に対峙する社会福祉の思想・哲学を再考する場とした。

日時：2015年3月8日（日）13：30～16：30（受付開始：12：45。終了後、懇親会の開催を予定）

報告者：①石坂誠（佛教大学大学院社会福祉学研究所 博士課程）

「貧困者・生活困窮者支援のあり方についての考察—2つの調査と若者の貧困の実態から—」

②中野加奈子（大谷大学）

「京都のホームレス問題の実際と見逃されてきた貧困」

コメンテーター：伊藤文人（日本福祉大学）

コーディネーター：鈴木勉（佛教大学）

場所：キャンパスプラザ京都6階 龍谷大学サテライト教室（第7講習室）

京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939

(<http://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>)

参加費：無料。

参加申し込み：antonkun@human.ryukoku.ac.jp（阪口春彦）宛に、①お名前、②ご所属、③懇親会参加の有無をご記入のうえ、2015年2月27日（金）までにお申し込みください。

（龍谷大学短期大学部 阪口春彦）

2014年10月18日、龍谷大学梅田キャンパスにて「地域包括ケアとソーシャルワーク」をテーマに白澤政和先生（桜美林大学大学院老年学研究科教授・大阪市立大学名誉教授）よりご講義を賜り、参加者との議論がなされた。参加者は21名であった。

まず、「地域包括ケアとは」では、包括（comprehensive, integrated）はコーディネートよりも一体的な意味を持ち、子どもから高齢者までを含めた全ての住民を対象に、地域での仕組みづくりを確立することが重要であることが白澤先生より解説された。その上で、地域包括ケアはソーシャルワークそのものであるのに、なぜ地域包括ケア研究の中心にソーシャルワークが置かれられないのか、という問題提起が先生からなされた。これに対し、参加者からは、高齢者の領域に限定され介護支援専門員の介護保険業務とみなされてしまっていること、介護保険の財源問題とも関連していること、今後他領域に広げるためにも現在は介護福祉領域での基盤づくりに力を注ぐことが重要ではないか、などの意見が出された。また、なぜソーシャルワークの社会的評価は高くならないのかという問題提起では、ソーシャルワークは「社会のための科学」として、計画設計し、介入を実施し、評価していくことが重要だが、他領域と比較するとその緻密さに欠け、評価研究も弱い点が課題として存続していることが説明された。

次に、「個人支援としてのケアマネジメント研究」では、白澤先生がご自身の研究テーマを選定する際にご苦労された経緯や、岡村重夫先生との関係性についても拝聴することができた。1985年に日本で初めてケース・マネジメントの論文を発表後、阿倍野区老人福祉センターに総合相談所を設置する実践をされ、これらが在宅介護支援センター創設や介護保険における支援計画表のツール開発に大きな影響を与えている。今後は、自立支援におけるケアマネジメント方法として、従来からのストレングス・モデルに加え、自ら回復していくリカバリーや自ら蘇生していくレジリエンスという当事者視点も新たに加えることが重要であることを強調されていた。

さらに、「地域支援としてのネットワーキングとソーシャルワーク論」では、メゾレベルの諸機関・団体の組織化を推進し、マクロレベルである生活圏域におけるネットワークを新たに構築していく開発機能が今後ますます求められている。『地域のネットワークづくりの方法』（2013）は、個人支援と地域支援を一体的に推進する方法が具体的に示されている。各団体への根回し（ネゴシエーション）や新設予定の生活支援コーディネーターの役割なども今後注目されることであった。

最後に、「地域包括ケア推進での今後の課題」では、これまで縦割り行政の施策によって同類の機能を担う

第31回若手研究者・院生情報交換会報告

ネットワークが次々につくられ、消滅しては別な局・課が実施してきたという歴史的失敗に触れられた。これらを繰り返さないためにも、ソーシャルワークに関わる実践者と研究者が一体となった並々ならぬ努力が求められる、とご指摘をいただいた。

(龍谷大学短期大学部 大友秀治)

第32回若手研究者・院生情報交換会報告

2014年12月13日(土)、梅田スクエアビルディング8階にて「認知症ケアを通じて考える日本の福祉」のテーマのもと、第32回若手研究者・院生情報交換会が開催され、活発な意見交換を行った。参加者は当日参加者を合わせ12名であった。神戸学院大学講師の水上市氏からは、「高齢者虐待の評価研究 ―現場実践者との共同から―」について報告がなされた。内容は、2008年に大阪府において開発された市町村高齢者虐待防止評価モデルの解説であり、市町村が円滑に高齢者虐待防止体制の整備をすすめていけるよう、自らの高齢者虐待防止の取組みを評価、優先的な取り組み課題を明らかにできる方法を開発し、実際に評価を行うことによって、その精度を高めて有用性を確認し、広く市町村に普及させることを目指したもの。さらに、これまでの評価データを分析したところ、特に認知症高齢者は虐待を受ける傾向が強く、抽出された共通課題として養護者の精神疾患、本人の支援拒否、経済的困難などのリスクが見えてくる中で、①社会心理的孤立を防ぐ、②多職種チームアプローチの重要性、③本人との信頼関係の構築、④長期ケースにあっては、経済的困窮の防止など対策が必要であると報告された。次に、関西福祉科学大学助教の清原舞氏からは、スウェーデンの高齢者福祉として、カールスタッド・コミュニティにおける高齢者施設の実践の報告がなされた。スウェーデンにおいても、2030年には高齢化率が30%を超えることも予想されているとし、福祉サービスには民間企業も参入するなど日本と似ている状況があったり、ほとんどがホームヘルプサービスを利用し、可能な限り、在宅で生活を送るなど、日本とは異なる点も報告された。また、認知症高齢者のための施設も紹介され、利用者が中心の安心した生活を実現するため、1室35㎡以上の日本と比べるとかなり広いスペースが確保されたユニット型の居室の説明や、①サービスのスリム化を目指す、②民間参入によるサービスの質の低下の防止策など制度上の今後のスウェーデン高齢者福祉の方向性と課題も報告された。桃山学院大学教授の川井太加子氏からは、高齢者福祉に関する研究として、「認知症サミット日本後継イベントについて」の

説明があり、大阪府和泉市で取り組まれている医療と介護の連携を進めるための条例の紹介や、認知症ケアパス、認知症初期対応チーム、地域ケア会議の充実などの説明を通じて、認知症の診断を受けた後でも継続して、住み慣れた地域で自らの生活を営めることの重要性の解説がなされた。また、生活を支える介護福祉職の資質向上と施設サービス等を評価できる視点を持つ専門職としての人材育成の必要性の説明も行われた。最後に日本ソーシャルワーカー協会の大塚保信氏からは、①現代社会と高齢者福祉として、少子高齢社会の到来、高齢者を取り巻く社会経済の変化と課題について、②高齢者福祉の動向などの制度の歴史的な経過と地域包括ケアシステムの構築についての説明を踏まえたうえで、③認知症高齢者への取り組みの解説がなされた。また、「介護は人権保障の総援助」であると、今後の認知症高齢者ケアの重要性を総括された。

今回の報告会は、認知症ケアを取り巻くとても広い範囲で報告や解説が行われ、認知症ケアを進めれば、全ての人の暮らしに安心がもたらされるという日本の福祉は普遍的で公平であるべきとの考えを再認識する良い機会となり、限られた時間であったが、充実したものとなった。

(桃山学院大学大学院社会学研究科
前期課程 寺内謙元)

機関誌『関西社会福祉研究』創刊へ

会員待望の！関西社会福祉学会の機関誌『関西社会福祉研究』の第1号は、2014年度内の発行を目指して追い込み作業中です。

創刊号の基本的な柱は3つあります。まず、会員からの投稿原稿です。今回は当初、13本の投稿がありました。テーマは多様であり、本学会の広がりを感じられます。現在、最終的な選考を進めているところです。2つ目の柱は依頼論文です、歴史のジャンルから神戸女子大学の小笠原慶彰先生、原理の立場で大阪府立大学、児島亜紀子先生、そして、政策実践で大阪府社会福祉協議会、片岡哲司会員にお願いいたしました。そして最後の柱が池田敏正先生へのインタビューです。これまでの研究の歩みについて語っていただいています。この機関誌の発行が関西の社会福祉研究の、新たな一歩となることを願ってやみません。

なお、次号以降も投稿論文を受け付けます。締め切りは8月末となりますので、ご準備をよろしく願います。詳しくは、機関誌の投稿・執筆規程をご確認ください。(小野 達也)

B会員会費納入のお願い

日本社会福祉学会の関西地域ブロックの方は自動的に関西社会福祉学会の会員（A会員）となり、会費は日本社会福祉学会からの還元金を当てることとなります。

一方、日本社会福祉学会の関西地域ブロック会員でない方、日本社会福祉学会の会員ではないが関西社会福祉学会の会員である方（B会員）の年会費は2,000円です。従って、B会員の方で、本年度（2014年度）会費2,000円を未納の方は、納入していただくようお願いいたします。会費納入が3年間ない方については、B会員を退会したものと扱わせていただきます。

なお、B会員の方で、日本社会福祉学会関西地域ブロックの会員になられた方は、お手数ですが事務局までご連絡ください。

B会員会費納入方法の変更について

B会員の方には別途、会費納入の依頼文書をお送りしております。指定の銀行口座に年会費（2,000円）を納入していただきますようお願いいたします。その際には、ご利用の個人名義口座から学会名義口座への振り込みをしていただくと、振込者の氏名が学会通帳に記帳され、こちらの確認作業が容易になり助かります。なお、振込手数料につきましては、各自でご負担いただきますようお願い申し上げます。

金融機関 三菱東京UFJ銀行

支店 大阪営業部

口座名義 関西社会福祉学会

口座番号 4530873

(野村恭代)

機関紙担当から

今年度第2号を発行いたします。

三月の「大会」にふるって参加下さいますようお願い申し上げます。

また、いよいよ学会誌が刊行されます。年度内にお届けすべく作業を進めていますので楽しみにお待ちください。

(小山 隆)

関西社会福祉学会ニュースレター

発行日 2015年1月5日

発行者 会長 岡本民夫

関西社会福祉学会

事務局 桃山学院大学

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

桃山学院大学社会福祉実習指導室（川井）気付

電話：0725-54-3131（内線2636）

FAX：0725-54-3289